

## 第8回原子力委員会定例会議議事録

1. 日 時 令和2年3月3日（火）10:00～10:15

2. 場 所 中央合同庁舎第8号館6階623会議室

3. 出席者 内閣府原子力委員会  
岡委員長、佐野委員、中西委員  
内閣府原子力政策担当室  
竹内参事官、笠谷参事官補佐

### 4. 議 題

- (1) アジア諸国における人材育成シンポジウムについて
- (2) その他

### 5. 配布資料

(1) アジア諸国における人材育成シンポジウムについて  
参考資料

- (1) FNCAの活動方針に関する共同コミュニケ（仮訳）

### 6. 審議事項

(岡委員長) それでは時間ですので、ただいまから、第8回原子力委員会を開催いたします。

本日の議題ですが、一つ目がアジア諸国における人材育成シンポジウムについて（案）。  
二つ目が、その他です。

本日の会議は、10時30分を目途に進行させていただきます。

それでは、事務局から説明をお願いします。

(竹内参事官) それでは議題1です。原子力委員会では、昨年末にFNCA、アジア原子力協力フォーラムにおいて、会合総括として大学等の人材交流の活性化を促進する等に言及した共同コミュニケを採択いたしました。それに基づき原子力委員会では、アジア諸国での人材育成シンポジウムを検討しているところです。

それでは、それについて事務局から説明の方をお願いいたします。

(笠谷参事官補佐) 説明申し上げます。

まず本日の資料の参考資料の第1号を御覧ください。第1号の方は、昨年12月にアジア原子力協力フォーラムといたしまして、我々原子力委員会が主催をしておりますアジア各国との原子力協力等について対応している会議でございますが、その閣僚級会合が昨年12月に開催されております。

その際、FNCAの活動方針ということで、参考資料第1号の共同コミュニケがまとまっておりますが、この参考資料第1号の2ページ目に、どのように取り組んでいくかというのが列記してあるのですが、そのうちの5ポツ、2ページの一番下の方に5ポツで、原子力科学・技術分野における人材基盤強化のための協力ということで、FNCAのネットワークを活用して大学、研究機関間の組織的な人材交流を活性化するとともに、人材基盤強化に関する取組の情報交換を促進するというところで、FNCAにおいて、まずFNCA諸国を中心にこのような人材基盤強化のための取組を進めていくということがうたわれているところでございます。

それを受けまして、資料の第1号でございますが、我々原子力委員会の方では、原子力委員会及び事務局の方では、これらも受けまして、アジア諸国における人材育成シンポジウムということについて今検討しております。その検討状況について本日は御報告するものであります。

まず、目的といたしましては、所属の専攻・学科等及び自身の研究教育内容等をインドネシア側と相互に紹介することにより、両国の原子力技術及び放射線利用分野における交流の促進を諮るとともに、当該分野の研究開発及び人材育成・確保に貢献すると。海外からの留学生等として、日本の大学及び研究機関で研究者、学生等を含めた両国の大学及び研究機関間の組織的ネットワークの構築を図るということにしております。

これは現在、インドネシアをまず第1の候補として、我々インドネシアのBATAN、原子力庁とも今調整しているというところでございます。

インドネシアを対象に、この2ポツの開催先候補ですが、インドネシアのインドネシア大学、バンドン工科大学等、インドネシアの主要大学を念頭にシンポジウム等の開催を考えております。

先ほど、分野として原子力技術及び放射線利用分野ということがありましたが、これらは特にFNCAの参加国では、今実際原発を導入している国というのは、FNCAの国では日

本、中国、韓国というところまでとどまっておりますので、例えばインドネシアですとかは、まだ原発というところにはまだ具体的には至っておりません。他方、一昨年のFNCAでも紹介いたしました、オンコロジーと申しますか、放射線利用による治療とか、あと農業利用ですね、育種とかの農業利用、農業による利用ということで、放射線利用への関心とか実際の利用は非常に高いということもありますので、いわゆる原子力技術と申しますか、原発的な原子力工学の分野の先生と、及び放射線利用をされている先生をインドネシアの方に行ってくださいまして、それぞれの関心のある学生等にシンポジウムと申しますか、それぞれの専門を紹介するというようなことを考えております。それでもって先方の学生がそういうものに興味を持てば、ゆくゆくは日本に留学等を考えるということもあります。

他方、日本の先生方がインドネシアの、逆にインドネシアの先生方の話も聞くことによって、インドネシアの大学等についてもゆくゆくは日本の学生が行くというようなことも考えられると思っております。

それではまず4ポツなのですが、先に4ポツなのですが、参加予定大学の方は、これはまだ必ずしも確定しているわけではないのですが、例えば先ほど申し上げました専門の先生方として一緒に行こうと考えておられる、今検討をされているようなところとして、このようなどころがあるということでございます。北大、東北大、東京大学等の大学ですとか、あと専門家として、日本原子力研究開発機構、量子科学技術開発機構等の独法等も考えております。

3ポツの開催事業なのですが、これらの方は今、BATANとか各大学とも調整中ではありますが、ただ、いかんせん、なかなかコロナウイルス等の話もありまして、まだちょっと正確な開催時期の方は見通せていないというところがございます。これらはインドネシアの調整ですとか状況とかが落ち着くのを見まして、また適切な開催時期の方を考えていきたいと思っております。

原子力委員会としてはFNCAで先ほどの話もあったことですから、このようなシンポジウムの方を開催するというを考えていきたいと思っております。

説明は以上でございます。

(岡委員長) ありがとうございます。それでは質疑を行います。

佐野委員からお願いします。

(佐野委員) 原子力エネルギーとか放射線分野での人材育成、それから人材の確保が大きな課題になっているわけですけれども、そういう意味では大変タイムリーな企画だと思われま

これはF N C Aのフォローアップにもなるのでしようけれども、インドネシアを皮切りに、是非ほかのアジア諸国との間でも着実にやっていただきたいと思います。

一つ質問ですけれども、本件は去年の12月5日に採択されたF N C Aのコミュニケの5に載っているわけですが、これは日本だけのアクションではなく、F N C Aの参加国がこれを基にいろいろアクションをとっていいわけです。そういう意味では、インドネシアを皮切りにほかのアジア諸国から招聘（しょうへい）することがあってもいいのかなと思うのですが、この5は今回のコミュニケで初めて合意されたのでしようか。それとも以前のコミュニケにも入っていたのですか。

(竹内参事官) 項目としては入っていたのですけれども、他方で、アジアとの人材交流を活性化するとか、そういうところをより積極的にしようということで内容を強めているというふうな内容でございます。それが一つでございます。

あともう一つ、アジアの国から日本に人に来てもらうとか、ミッションに来てもらうとか、いろいろなやり方があると思いますので、それについても今後検討すべき課題だと思っています。

例えば、このようなアジアのシンポジウムがもし実現すれば、日本の大学とインドネシアの大学のネットワークができて、そのネットワークによって個別に来ると、そういうこともあり得るといふふうにも思っているところでございます。

(佐野委員) ありがとうございます。

(岡委員長) 中西先生、いかがでしょうか。

(中西委員) どうも御説明ありがとうございました。是非、アジア諸国における人材育成に協力していくこと、大切だと思います。

ただ、F N C Aを考えますと、原子力委員会が担当する前は原産協会がすごく長い間担当してしまっていて、それでJ A E Aも随分長い間バタンとやっています。人材育成は長い時間を見据えたものだと思いますので、短期にちょっとしたから伸びるということでもないと思いますので、今までどういうことをやってきて、何が問題点として残っているかというのも、踏まえておく必要があるのではないかなと思います。

原子力研究所、もう私の知っている人は本当に定年になっても人材育成に一生懸命で、最後は自費でもずっと頑張っていてやっていたぐらい燃えている方がおられました。そこら辺も踏まえて、そこを更に伸ばすようなところを考えていただければと思います。

以上でございます。

(岡委員長) ありがとうございます。人材育成のシンポジウム、事務局、非常に熱心に準備していただいて、来週行くよとなったのですが、風邪で延期になったということで、計画として延ばしたということです。

それで、御説明もあったところなのですが、FNCAの活動はこれまでは、研究機関を中心に行われてきた。人材の方も研修生を受け入れたり、あるいは研究員を受け入れたりということで、研究機関——JAEAさんとかQSTさんはそういうことを長年やっておられたのですが、その人脈も、どちらかというと個人の研究者のベースのもので、皆さん、年もとっていきますので、そういう人脈の維持発展ということも必要です。もう一つ重要なことは、原子力委員会の活動には、今まで大学は余り入っていなかったのですね。これは歴史的にいますと、矢内原原則とかいったりして、昔ですね、日本で原子力利用が始まったころ、大学は原子力利用とは別よとか、そういうことを言った大学の先生がいて、原子力計画や活動から除外されていたということがありました。もう随分前にそういうことは実質的に解消された。例えば原子力関係の人材育成予算も競争的資金も大学ももらえるようになっております。ただ、これまで原子力委員会としては、大学の活動を余り伺ったことがなかったということがあったと思います。現在の原子力委員会はは大学の話もたくさん伺うようにしております。

ということで、大学の話になりますと、優秀な人材を国内外から集めるのは大学の重要な機能だと。その後、研究機関に入ったり企業に入ったりするということが、海外から優秀な人材を集める必要があるということがあります。それから、それだけではなくて、海外のいろいろな文化といいますか、考え方といいますか、そういうことを日本の学生が勉強をしないといけないということも非常に重要であると思います。このあたりは日本が非常に遅れている分野だと私自身は思う、あるいは私自身も遅れているところがあると思います。最近では東南アジア諸国も随分GDPも大きくなりましたので、以前は交流は一方通行的だったと思うんですけども、今後は双方向といいますか、そういうことも視野に活動をする必要があると考えます。

大学にいた経験からいうと、先生の顔が見えるというのが、優秀な学生を集めるためには、まず必要です。それで、こういうことをやるということに意義があるとおもいます。大学の先生方が参加する予算は原子力委員会にはありませんので、参加される先生は大学のお金か、御自分のお金で来ていただかないといけないのですけれども。BATAN、インドネシア原子力庁に、連絡したところ、向こうは非常にアレンジをしてくれて、今名前が四つ挙がって

いますけれども、いずれもインドネシアのトッププランクの大学ですけれども、そういうところに行って両国の大学のシンポジウムをするということで準備をしてきました。

以上です。

先生方、ほかに何かございますでしょうか。

ちょっとコロナウイルスで延びておりますけれども、インドネシアに限らず、いろいろなところとやっていけるようになれば非常にいいなと思います。

どういうふうにフォロー、一遍やったらその後どういうふうにフォローするかということも実は課題なのですけれども、まずはとにかく一回やってみたいということで、事務局に大変協力していただいて準備は進んできているということです。

そのほかございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは議題1は以上になります。

議題2について、事務局から説明をお願いします。

(竹内参事官) 今後の会議予定について御案内いたします。

次回第9回原子力委員会の開催につきましては、再来週を予定しております。日時、3月17日10時から、場所、8号館6階623会議室、議題は調整中で、後日原子力委員会ホームページ等の開催案内をもってお知らせいたします。

(岡委員長) ありがとうございます。

そのほか委員から何か御発言ございますでしょうか。

それでは御発言ないようですので、これで本日の委員会は終わります。ありがとうございました。